



都市部のエンジニア・自治体職員・地域住民 三者連携で地域課題を解決する

世界史において類例がない急激な人口減少社会に突入したことで多種多様な課題が存在する
課題先進国ニッポンにおいて、テクノロジーを活用し『社会課題』を解決する Society5.0 実現に向けた取組みが加速しています。
企業が新時代に必要な価値や事業を生み出すためには、地域の資本や課題を理解し地域住民との対話と合意形成をすることが必要です。
ソーシャルチャレンジャー研修プログラムでは、都市部に暮らすエンジニアが地域をフィールドにした研修を通して
社会課題を体感し、結論ありきでなく本質的な問題解決を目指す活動を全国で実施しています。
持続可能な地域づくりに向けて、行政が主体で政策を考え実現していくのではなく
多様な組織と連携しそれぞれの得意分野を活かして地域課題解決に取り組みます。

実施スケジュール



全6回の事前研修

住民取材フィールドワークと
取材記事の作成

6つの資本フレームワークを
活用した地域の資本分析

地域の強みや課題を
掛け合わせた vision 構築

国家施策である Society5.0 や
SDGs の実現に向けた事業構想

地域の vision に対する
地域住民との対話と合意形成



1

視察

フィールドワーク前に視察を実施し、自治体が抱える課題や可能性について担当職員からヒアリングを実施。事前に調査をしていた公開データと職員が感じている課題感のすり合わせを行い、フィールドワークに向けてどんな情報を得たいかをディスカッションします。また住民取材フィールドワークの依頼や地域課題の事前把握を行うため、現地でキーマンと関係を構築します。

■ 1日目

- ・役場にて職員との打合せ
- ・職員との懇親会

■ 2日目

- ・住民取材①、②
- ・役場にて職員と打ち合わせ

※役場との調整により内容が変更となる場合があります



2

住民取材フィールドワーク

視察にて把握した地域課題についてチームで更に調査を行い、地域課題の深堀、ファクト情報の収集を行います。それらの情報を元に改めて住民取材を実施。住民との交流をする中で得た地域資源や課題、気付きを6つの資本フレームワークを活用して分析し、最終日に行政職員や住民の前でプレゼンテーションします。

■ 1日目

- ・役場にて職員との打合せ
- ・住民取材①
- ・懇親会

■ 2日目

- ・住民取材②、③
- ・プレゼン資料作成
- ・6つの資本フレームワークを活用した資本分析ワーク

■ 3日目

- ・職員や地域住民の方へのプレゼン
- ・住民交流ワークショップ

※役場との調整により内容が変更となる場合があります



3

事業構想

フィールドワークで特定した地域の可能性に対して、着手したい地域課題を特定します。内閣府の「未来投資戦略」のフラッグシッププロジェクトと地域課題を紐付け、行政と連携しながら持続可能な地域のビジョンを構想。継続的な地域ヒアリングを行いながら、地域課題を解決する事業を地域とともに構想します。

■ 継続的な地域ヒアリング

- 必要に応じて現地打ち合わせ、新たな住民取材
- 次年度以降の取り組みの可能性を検討



4

年間報告会

フィールドワーク後に自治体職員や地域住民と共に地域課題解決の為の事業構想を作成し年間報告会で発表を行います。報告会には本プロジェクトに関わった自治体の首長、職員、地域住民を招待し半年間の活動、成果、次年度以降の取組の可能性について報告します。

■ 活動報告、成果発表

- 交流会
- 初年度参加自治体

栃木県矢板市・茨城県鉾田市・島根県美郷町・高知県土佐市
高知県の町・高知県日高村・鹿児島県薩摩川内市

諸条件

■ 実施期間

2020年3月～12月

- ① 視察：2日間（4～5月）
- ② フィールドワーク：3日間（6～7月）
- ③ 事業構想：随時（8～12月）
- ④ 年間報告会：1日間（12月）

■ 費用

研修プログラムにおける

活動費は参加企業が負担します。

フィールドワークでは、地域で活動するキーマンの方に取材を行い記事を執筆

フィールドワークでは、地域で活動するキーマンの方に取材を行い記事を執筆します。地域の課題や可能性、地域独特の文化、キーマンがこれから取り組んでいきたいことを把握することで地域の方々との信頼関係を構築することを狙いとします。この取材活動で得た情報や関係が地域住民が本質的に必要としている事業を構想する際に重要な材料になります。



取材フィールドワークの様子

キーマン STORY ウェブサイトは QR コードからご覧ください▶▶▶



キーマン STORY ウェブサイト

地域のキーマン

地域で活躍するキーマンを探そう!

研修参加者プロフィール

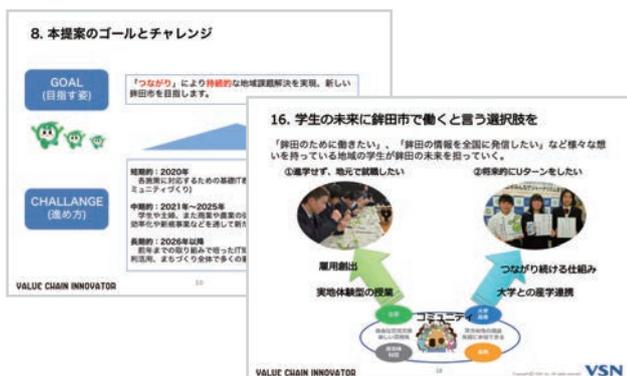
6つの資本フレームワークを活用した地域の資本分析

国際統合フレームワークを改良した地域版 6つの資本フレームワークを活用して地域資源を分析します。地域における課題を整理するのではなく、地域にある資本を整理することが地域住民を巻き込みプロジェクトを構想する上で重要なプロセスになります。フィールドワークの最終日には行政職員や取材をしたキーマンを集めて整理した地域の資本、それを活用した今後の取り組みの可能性について発表します。



<p>1 財務資本 一般会計以外の財務</p> <p>ふるさと納税 国からの補助金・交付金 (地方創生推進交付金) 寄付など</p>	<p>4 製造資本 建物、設備など</p> <p>空き家・空き店舗 廃校になった小・中学校の校舎や 体育館など</p>
<p>2 知的資本 知識ベースの無形資産</p> <p>地域の自主組織との連携方法 地域ブランドの作りなど</p>	<p>5 社会関係資本 多様なステークホルダーとの 関係や情報を共有する能力</p> <p>外部のステークホルダーとともに構築し 保持に努める信頼及び対話の意思 ブランドや評判に関連する無形資産 組織が事業を営むことの社会的許容</p>
<p>3 人的資本 人々の能力や経験及び イノベーションへの意欲</p> <p>視察を理解・開発・実践する能力 地域住民のシビックプライドや意欲</p>	<p>6 自然資本 地域の過去・現在・将来の成功の 基礎となる物やサービスを提供する</p> <p>全ての再生可能及び再生不可能な 環境資源及びプロセス 空気・水・土地・鉱物及び森林・ 生物多様性・生態系の健全性</p>





政策を行政職員と共に構想し 多くの関係者を巻き込む プロジェクトとして社会実装

Society5.0 実現に向けた内閣府主導の「未来投資戦略のフラッグシッププロジェクト」「まち・ひと・しごと創生総合戦略」「各自治体の総合戦略」をもとに、取材フィールドワークで分析した地域の資本を活用し、行政職員と共に政策を構想していきます。短期的な事業ではなく、地域の強みを活かした中長期的な事業を構想することで地域住民はもちろんのこと多くの関係者を巻き込むプロジェクトとして社会実装していきます。

住民との対話と合意形成

優れたサービスや技術を持っていても、社会課題や地域資本を的確にとらえることができなければ、新時代に必要な価値や事業を生み出すことはできません。持続可能な地域づくりのためには、企業と地域住民との対話と合意形成が必要ですが、これまでの企業活動は当事者との対話なく解決に取り組むため、成果に繋がりませんでした。企業が地域の資本や課題を理解したうえで地域住民とともにビジョンを描き、課題解決に向けて事業構想するプロセスが大切です。フィールドワーク最終日には、住民交流ワークショップを実施します。



地域のフィールドを企業に開放しフィールドワークを受け入れることで これまでにないアプローチから新しい事業創造を目指し 企業と自治体の双方の課題解決につなげます。

地域が本質的に必要としている事業は、企業単独では構想できません。現場のフィールドに足を運び、生活者の声を聞くことが重要です。本研修では、信頼性獲得力とビジョン構築力を地域で発揮することで、生活者に寄り添った本質的な課題解決に挑戦する人材を育成します。首都圏企業の人材を単なる関係人口で終わらせず、ともに連携し新たな価値を作っていくパートナーとして迎え入れて見ませんか？



信頼性獲得力

個人のパーソナルな情報・スキルを使いながら行政職員や地域住民と関係を構築し未来に向けたやりとりができる力



ビジョン構築力

国家施策や地域の総合戦略で規定された姿勢や存在意義に基づき、ある時点までに「こうなっていたい」と考える到達点、つまり地域が目指す中長期的なイメージを行政職員・住民・社会全体に示せる力

お申し込み・お問い合わせ

staff@bono.co.jp

ボノ株式会社 ソーシャルチャレンジャー担当者 までご連絡ください



ボノ株式会社 〒112-0014 東京都文京区関口1-29-6,1F
URL: <http://garakuta.tokyo/>